

平成29年度

偕行社総会

編纂委員会

平成29年度公益財団法人偕行社総会が、10月13日（金）、グランドヒル市ヶ谷において開催された。

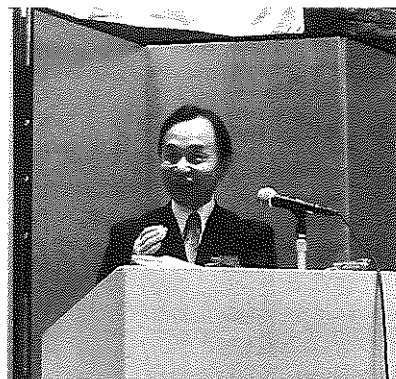
招待者20名、全国偕行会会長等43名、参加総数195名の参加を得て、盛大に行われた。

午前11時、若木事務局長の司会で開会が宣言された。陸上自衛隊東部方面音楽隊の演奏で国歌を斉唱し、「国の鎮め」の調べが流れる中、先の大戦で尊い命を捧げられた英霊と自衛隊殉職者の御霊の安らかならんことを祈念して黙祷が行われた。

冒頭、冨澤理事長が、「ご来賓への謝辞、全国偕行会会長等参加者に対するお礼を述べられた。また、先輩会員の方の御礼を述べられた。また、先輩会員の「最後の同窓会」が、3回、4回と行われていることを紹介し、最後と言わず何時までもお元気で総会に参加して頂きたいと述べられた。

続いて小柳専務理事から会務報告があり、総会は終了した。

その後、東部方面音楽隊（指揮・隊長長藤良幸3等陸佐）による音楽演奏が行われた。「偕行百年」も演奏され、



國分氏の記念講演

素晴らしいひと時を過ごした。

12時から防衛大学校長國分良成氏による記念講演を拝聴した。演題は、「中国をめぐる内外情勢―現状と行方」であった。中国共産党大会を1週間後に控え、どう動くか予想がつかない中でこの講演であり、「いま中国問題を話すのは、拷問に近いものであります」と冗談を交えながら、「習近平体制が5年経過し、これから5年続くのか、10年続くのか分からないが、現状についてお話ししたい」と興味深い講演をいただいた。

特に「習近平体制は、固まったのかどうか」という我々が興味を持っている問題については、「江沢民派を排除し、胡錦濤派の共産党青年団グループを粛正し始めている状況を見れば固まったように見えるが、逆に派閥抗争

の話題が続いている状況は固まっていないからこそ、抗争が続いている」と分析された。それを伺うと、習近平が過去に例を見ない軍事パレードを実施し、戦闘服で閲兵したのは、軍を掌握できていない状況の裏返しだと気づかされた。

習近平体制が続くかどうかにについては、「現在の総書記という役職は、事務局長であり、毛沢東主席時代は、鄧小平が総書記であり、序列は6番目くらいだった。彼の狙いは、毛沢東以来の党主席復活か、大統領とも言うべき国家主席かもしれない」と分析された。いずれにしても、彼にとつての最大の問題は、「国内経済である。バブル状況であることは認識している。国民が食べられなくなつたときは崩壊する」と厳しい見方をされた。

休憩の後、懇親会に入り、山谷えり子参議院議員、佐藤正久参議院議員、宇都隆史参議院議員、高田克樹陸上幕僚副長、増田好平隊友会常務理事からご祝辞を頂いた。

来賓紹介の後、齋藤隆水交会理事長の乾杯の発声で懇談に入った。

尾崎音楽工房によるアトラクションや森繁弘評議員会議長の音頭で、「偕行百年」、「幹部候補生学校校歌」、「この国は」、「陸軍士官学校校歌」を斉唱

した。参加者が台上に上がり、肩を組んで大いに盛り上がった。

盛会の中、溝口博伸つばさ会副会長の万歳三唱をもって午後3時15分閉会した。

（文責 井上廣司）

●「会務報告」

1 全般

当法人は、継続的に組織及び事業全般を見直すとともに、中期的展望に立った新たな視点で各種事業を推進する。この際、平成28年度の成果を着実に拡充して安定・充実した会務運営基盤の維持に留意するとともに、各地偕行会との連携強化に努め、更に外部への発信活動の促進に努めるとの方針のもと、計画に基づき事業を着実に推進している。また、昨年8月に将来検討委員会を発足させ、将来態勢について検討を行っている。

2 慰霊・援護（公1）

① 旧弘前偕行社保存修理支援

本年9月1日所有者の弘前厚生学院が第3者委員会を立ち上げ、受け入れ態勢が整ったことに伴い、逐次支援を開始する。偕行社からの支援金は、総額1,000万円、個人寄付額は9月1日現在 4,155,200円（寄附者数・1,737名）である。

② 靖國神社御創立百五十年記念事業
「一般事業であれば公益法人であっても宗教法人に寄附ができる」との内閣府の解釈を踏まえ、靖國神社と借行社の関係を重視しつつ、過去の経緯及び他団体とのバランスを考慮して奉賛金額を決定した。

③ 本年5月15日に「戦没者遺骨収集推進法」が制定され、戦没者の遺骨収集を初めて「国の責務」と定めた。本法制の元に、「(一社) 日本戦没者遺骨収集推進協会」が設立され、借行社は、各地借行会の協力を得て本事業に参加している。

④ 市ヶ谷駐屯地のメモリアルゾーンにおいて、市ヶ谷台慰霊祭を実施したほか、月例参拝等例年通りの慰霊事業を実施している。

3 安全保障等に関する調査・研究・提言(公2-1)

① 「米国新大統領誕生と日本の安全保障上の課題を解明する」をテーマとし、研究を行っている。

② 公益社団法人隊友会が主導する人事局長との勉強会に参加するほか、防衛大臣に対し、他の諸団体とともに、政策提言を行った。

4 近現代史に関する調査・研究及び発表(公2-2)

昨年に引き続き日中戦争をテーマとして研究を継続し、本年度が支那事変勃発80周年を迎える年であることから研究成果を書籍として記念出版する。

5 教育問題の研究

平成30年度から小学校、31年度から中学校に道徳教育が導入されることを踏まえ、旧軍人が体現した道徳の具体例について研究、その成果を逐次定期刊行誌『借行』に発表している。

6 自衛隊に対する協力(公3)

① 陸上自衛隊幹部学校指揮幕僚課程学生及び学校職員に対し教育するとともに、小平学校及び各方面隊が行う定年前教育に、各地借行会の協力を得て講師を派遣し、借行社の概要及び退職後の生活設計に資する教育に協力した。

② 自衛隊の行う国際平和協力活動においては、ジブチ派遣海賊対処行動支援部隊(中央即応連隊基幹)及び南スーダン派遣施設隊第11次派遣部隊(第9師団基幹)に対し、地元借行会を通じて、部隊を激励した。

7 定期刊行誌『借行』の発行

借行社の公益広報の性格を重視し、会員の研究論説、シンポジウムの成果、自衛隊の活動等を紹介するほか、会員

の親睦及び入会促進に資する広報誌として内容の充実・魅力化に努めている。

8 広報活動

ホームページにより『借行』の紙面を補完するほか、定期的に内容を更新、更にフェイスブックを活用して借行社についての情報を発信している。なお28年度のホームページへのアクセス数は18,673件であった。

9 厚生活動

第7回文化祭を借行社で開催した。作品展示会では、出典作品数73点(絵画・写真・書道・陶芸・手芸・クラフト)であり、来場者数は118名であった。また芸能発表会では出演者36名、来場者は69名であった。なお、会館事業の収支の改善に、引き続き努力中である。

10 会勢の状態

① 本年9月末の会員数は、5,301名であり、本年4月に元自会員が3,000名を超えた。賛助・家族・法人会員を含め総数は、6,345である。

② 各地借行会長は、本年9月末現在、従前会員が13名、元自会員が36名であり、事務局長は従前会員が1名、元自会員が48名となり、組織基盤が確実に

継承されている。

秋田県借行会が、本年9月解散した。③ 準会員の名称を廃止し、全て普通会員とした。(普通会員A及びB)

11 財政状況

① 28年度収支予算書では、一般会計における収支差額が約2,435万円、赤字予算を計上したが、決算では約1,707万円の赤字に留まった。これは各事業担当者の経費節減の努力によつてなされたものである。

② 正味財産は、28年度末で約13億3千万円となり、27年度に比し約190万円減少した。

12 将来検討

白石副理事長を座長とし、各委員長等を委員とする「将来検討委員会」において、5〜6年先以降の借行社像を検討しており、本年12月に最終答申を予定している。検討中の主要項目は、収支均衡予算をベースとし、事業の在り方、事業の効率化、借行社と各地借行会の関係、定期刊行誌『借行』の在り方、現役自衛官の会員制、会員数と会費、社屋等である。